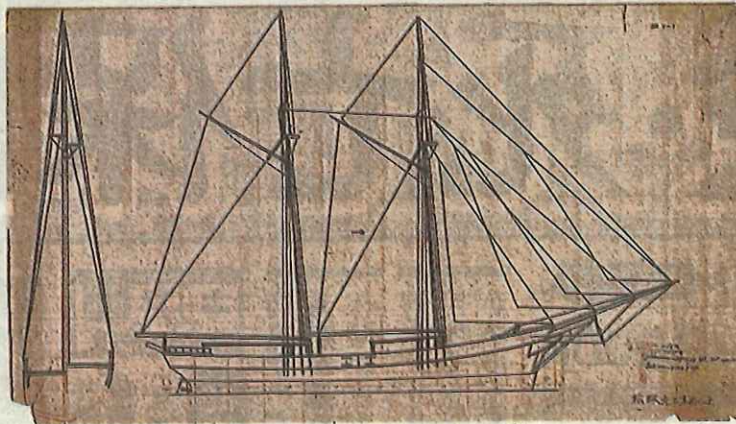


旧市川造船所の資料「ふね遺産」に

伊勢市所有 松坂丸の設計図など6万点

伊勢市が所有する旧市川造船所の資料約6万点が、日本船舶海洋工学会の「ふね遺産」に認定された。認定事業は2017年に始まり、今年の第4回分を含めると、歴史的、学術的に価値が高いとされる資料や関連設備など計32件が選ばれている。県内で認定されるのは初めてという。



旧市川造船所の資料の一つ、西洋型帆船「松坂丸」の図面＝伊勢市教育委員会提供

市教育委員会文化振興課によると、認定された資料は、1858(安政5)年から1978年にかけて作られた船の設計図や大工道具など計6万2080点。1878年に国内で初めて造られたエンジン付き西洋型帆船「松坂丸」の設計図面も含まれている。

かつて造船の町として栄えた伊勢市大湊地区にあった市川造船所は、1702(元禄15)年創業とされ、日本初の南極探検船「開南丸」のベースになる船を造るなど、日本の造船史で大きな役割を果たしてきた。戦後も造船を続けたが、1978年に倒産。その後は社名を変え、2006年まで船を造り続けた。

市教委は14年に造船所の労働組合から資料を引き継いで、18年から資料のデジタルアーカイブ化を進めてきた。今回、原子力船「むつ」や、ビキニ環礁で

の水爆実験で被曝した「第五福竜丸」なども一緒に、「ふね遺産」に認定された。

同課の奥野実主幹は「著名な船とともに専門の学会に遺産として認定されたことは、旧市川造船所の残し

た資料が貴重だということの証左だ」と話す。市教委は来年1月26日から津市の県総合博物館で、認定された一部の資料を展示する「三重の実物図鑑 特集展示『伊勢市の造船400年史』旧市川造船所資

料展く」を博物館との共催で開く。市のホームページでもアーカイブ化した資料を順次、公開していく方針だ。問い合わせは伊勢市教育委員会文化振興課(0596・22・7884)。(安田琢典)



石榑亜紀子の 空がみえたら

9月に入り台風が次々と発生し、予断を許さない状況が続いている。今から9年前、紀伊半島に記録的豪雨をもたらした台風12号は、のちに大雨特別警報が新設されるきっかけとなった。

大型で動きの遅かった台風12号は三重県の西側にあたる四国を通り、岡山県に上陸して日本海へ北上するコースをとった。台風は反時計回りに回転し、暖かく湿った空気を次々と三重県に送り込んだ。湿った南東風が続くほど、紀伊山地沿いには発達した雨雲が長時間かかり、台風接近前から先行して雨が降る。数日間降り続いた

大雨で、解析雨量が2千ミを超えた所もあり、大災害となった。気象庁はこのとき、重大な災害が起こる恐れがあるとして、警戒を促す情報を多く発表していた。

その後、一層の危機感を伝える必要があるとして、災害から約2年後にあたる2013年8月30日から特別警報の運用を開始した。特別警報が発表された時には、すでに重大な危険が身に迫っている異常な状態だ。「特別警報が発表されていなければ、まだ大丈夫」とは決して考えず、危険を感じたら早めの避難が大切だ。

災害時に必要な防災セットを購入入してみると、頑丈なリュックの中には簡易トイレや呼び笛など、備えを十分に行うことは防災意識を高めると実感できた。(いしべれ・あきこ「気象予報士」)

危険感じたら早めの避難

三重

HS

**北勢総合
法律事務所**

近鉄四日市駅
西口より徒歩1分

059-354-1000

津総局
〒514-0032
津市中央9-2
059-228-4141
FAX 224-4817
Eメール:mie.opi@asahi.com
県内支局
四日市
059-352-7181
FAX 352-7184
伊勢 0596-25-2151
FAX 25-2154
松阪 0598-21-4165
FAX 21-3077
尾鷲 0597-22-0346
FAX 22-0356
伊賀 0595-21-3225
FAX 21-3227
鈴鹿 059-382-0080
FAX 383-2238
名張 0595-65-8111
FAX 65-8112

三重地域情報
http://www.asahi.com/area/mie/
ご購入・配達は 0120-33-0843
紙面へのご質問は 0570-05-7616
紙面へのご意見は 0570-05-7616
広告は059-351-1171